

ジャーナリズム・政策研究所

講義要綱（平成 30 年度）

【時事コラムの楽しみ方】

（火曜日・5 時限講義）

桑 原 聡

本講座では、講師が産経新聞オピニオン面に連載している時事コラム「モンテニューとの対話」を素材に、時事コラムの筆法と読み方を考えてみます。同時に、受講者には講師が提示するテーマで、次週までに時事コラムを書いてもらい、これを出席者ひとりひとりに批評してもらいます。

勘違いしないでいただきたいのは、本講座の狙いは、コラムニストを養成することではなく、受講者のメディアリテラシーを向上させることにあります。自分で書き、それを批評されることによってこそ、読み方が豊かになると考えるからです。そうして読み方が豊かになれば、新聞1面のコラムの善し悪しが、さらには自分が商品としてのコラムを書ける器なのかどうかも分かってくるはずです。

よって本講座はゼミ形式となり、次週の月曜日までに 800 字のコラムを書き、講師にメールで送ることを、毎週 3 人に義務づけます。それは火曜日に受講者全員の批評にさらされます。このやり方に堪えられる方、ぜひ受講してください。お待ちしております。

桑原 聡（くわはら・さとし）

1957 年山口県生まれ。産経新聞社で雑誌「正論」編集長や文化部編集委員などを務め、現在は隔週で大型コラム「モンテニューとの対話」を連載中。10 年～11 年、日本大学芸術学部で「ポピュラーミュージック論」「村上春樹論」を講じる。著書に『わが子をひざにパパが読む絵本 50 選』『わが子と読みたい日本の絵本 50 選』（ともに産経新聞出版）、「〈ドン・キホーテ〉見参！ 狂気を失った者たちへ」（水声社）、共著に『酒とジャズの日々』（医療タイムス社）などがある。

【ドキュメンタリーはこうして生まれる】

(水曜日・4時限講義)

須 磨 章

TVドキュメンタリーは、どのようにして企画され、どのようなプロセスを経て制作、放送されていくのか、NHKにおける45年間の番組制作の体験をフルに生かし、具体的に語っていく。企画、交渉段階での資料や、実際に放送した映像の一部など、オープンにできるものはお見せすることもある。

映像メディアとしてダイレクトに表現できるメリットとともにプライバシーの問題など、取材対象の人々との接し方や、放送後の世間のリアクションに対するフォローなど、放送にはでない裏話もある。

須磨 章 (すま・あきら)

NHKに番組ディレクターとして入局後、本部報道局、スペシャル番組部衛星放送局などで、ドキュメンタリー番組の企画、制作に携わる。

【デジタル時代の新聞ジャーナリズム】

(水曜日・ 5 時限講義)

向 井 貴 之

「紙（紙面）」から「デジタル（画面）」へ。記事の読まれ方も、伝え方も、変わってきています。

インターネットやSNSの普及で、誰もが発信者になれる時代。多様な情報を入手しやすくなった一方で、虚実入り乱れた情報が、ますます飛び交うようになりました。いったい、何を信じれば良いのか。情報の受け手によるメディアの選別も、厳しくなっています。

その中で、報道機関やプロの記者に求められる役割・力量とは、何か。時代に合わせて、変えていかなければならないものと、簡単に変えてはならないものがあります。

私は、約20年にわたって報道現場に身を置いた後、昨春まで記者教育の責任者として、若手の育成や学生インターンシップの運営に携わってきました。そんな経験をもとに、新聞社の課題・挑戦・戦略をご紹介しますながら、デジタル時代のジャーナリズムを考える場にできればと思います。

様々な分野の報道に携わってきたので、社会・政治・スポーツなど、なるべく幅広いジャンルを扱う予定です。「事件報道」「調査報道」「課題解決模索型報道（ソリューション・ジャーナリズム）」などの報道スタイルや、「デジタル発信」などの新しいツール、舞台裏もご紹介します。ニュースの読み方（読み比べ方）を学んで頂くだけではなく、「わかりやすい文章」のコツなど、少しでも「お役立ち」になるような回を設けたいと思います。

なお、今年度後期は、法学部政治学科の講義「比較メディア論」も受け持ちます。ジャーナ研での本講座は、一義的には将来の進路としてメディア業界に関心がある学生の方々を意識した中身にしますが、扱うテーマや事例の多くが「比較メディア論」と重なるため、政治学科の方はご注意ください。

向井 貴之（むかい・たかゆき）

1992年、朝日新聞社に入社。地方記者を経て、社会部・政治部で主に国会取材を担当（社会部では事件・災害・サッカーW杯取材なども）。スポーツ部でデスクを担当した後、2014年から17年3月までジャーナリスト学校記者教育担当部長。17年4月から広報部主査。

【出版社の現場から一本づくりの舞台裏】

(木曜日・ 6 時限講義)

下 平 尾 直

読書や本が好きな方にはおすすめの講座です。

みなさんは「出版」や「編集」という言葉から、何を連想するでしょうか。ドラマ化されるような華やかなギョーカイ？ それとも「出版不況」と呼ばれるような暗くて地道で大変な仕事？ この講座では、本をつくって読者の手元に届くまでの基礎的な知識はもちろん、各界で活躍中のゲストにお招きしたり、本の帯や出版広告を作成したりしながら、具体的で実践的な本づくり＝編集のあれこれを身につけていきます。

*以下の講義内容は予告なく変更する場合があります。

01. 「編集」という仕事
02. 出版社とはどんな仕事をするところか
03. 映画で観る出版社の仕事
04. 奥付を「読む」：本に関する歴史と基礎知識
05. 書物の「解体」学：本はこうやってできている
06. 「わたしの1冊」をプレゼンしよう
07. パクリはなぜダメなのか？：著作権を考える
08. どんな本を世に出せばいいのか？：企画書を書く
09. 校正とはなにか？：考え方と実践
10. 装幀とはなにか？：本というブツの愉しみ
11. タイトルと帯文：キャッチコピーの考え方
12. 印刷と製本：まさに「本」の歴史と文化の担い手
13. 本と読者を架橋する：広告／書評の役割と重要性
14. 本はどこで買えばいいのか：町の本屋さんと「アマゾン文化」
15. 本は買わなくていいのか：町の本屋さんと「図書館生活」
16. まとめ

下平尾 直 (しもひらお・なおし)

1968 年生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程退学。コピーライター、編集者を経て、2014 年に (株) 共和国という出版社を創業。以後、藤原辰史『[決定版] ナチスのキッチン』(第 1 回河合隼雄学芸賞)、都甲幸治『狂喜の読み屋』、山家悠平『遊廓のストライキ』、池田浩士『[増補新版] 抵抗者たち』など 30 数点を刊行。共著に、『メディアの本分』(彩流社、2016) など多数がある。2012 年より、業界誌『出版ニュース』で「編集」をテーマに連載中。2017 年より、明治学院大学社会学部非常勤講師。

【商品とマーケティングーヒット商品が生まれたわけー】

(金曜日・3時限講義)

坂本 律行

企業は調査を行って、自らの商品やサービスに対する意思決定をしています。新製品のアイデアを洗い出し、ふるいにかけて絞り込む、コンセプトをまとめ、調査を行い、分析する。消費者の手元に商品を届ける。多くの消費者の購入へ至るまでのあらゆるステップがマーケティングです。どんな商品であれこれらのステップを経て市場化されています。

また、マーケティングは競争ですので、「勝つ」ための一般理論は成立しません。全てに新たな「発想」が求められます。状況に応じて行うべき基本的な考え方があります。具体的事例をあげながらマーケティングの役割や機能についてお話ししていきます。

1. コンセプトとターゲット
2. シーン
3. ベネフィット
4. マーケティング戦略
5. 市場の考え方、既存の市場と新しい市場、競争的市場
6. 競合との関係（商品のポジショニング）
7. 競合との関係（企業イメージとブランドイメージ）
8. マーケティング・リサーチ
9. 目的と調査手法
10. 分析の方法、分析結果の見方

坂本 律行（さかもと・のぶゆき）

主に、マーケティングリサーチ・分析の会社で、多くのメーカー、事業会社の調査分析とマーケティングに携わってきた。1982年から通算するとマーケティングリサーチ・分析業務経験は24年。消費財メーカーでのプロダクトマーケティング経験3年／販売管理、営業企画経験が5年。現在は株式会社坂本総合研究所代表、沖縄県のブルームーンパートナーズ株式会社業務執行役員を務めている。

【体験的ジャーナリズム論】

(金曜日・4時限講義)

山田克

かつて共同通信社社会部で優れたルポルタージュを書き続けた斎藤茂男という記者がいました。冤罪事件、政界や企業・労働現場の深層、学校・教育問題などをテーマに、現場にこだわって事実を追い求めたことで知られています。斎藤にあこがれて共同通信社に入り、38年にわたって社会部を中心に事件・事故、災害や社会問題の取材・報道に取り組んできました。担当した分野は検察・裁判、医療、食の安心・安全、巨大災害、原発問題など多方面にわたり、バブル人脈、ゼネコン談合、日韓裏面史、死刑問題などの長期連載も手がけてきました。

私の講義は、自分の記者体験に基づくジャーナリズム雑記のような話です。初めて講義を担当した一昨年は事件・事故報道の課題や問題点、昨年は調査報道の取り組み、通信社という「メディア業界の黒衣」の歴史を中心に取り上げ、その時々ニュースに関する話題もお話ししました。今年はこのテーマに加え、「記事のあり方」も取り上げます。ニュースを伝える文章と用字・用語という新しいテーマです。誰もが情報の発信者になることができる時代に、報道機関で働く人間が何を考え、何に悩み、どうしようとしているのかを率直にお話ししたいと考えています。

山田克 (やまだ・まさる)

共同通信社で社会部記者、デスク、大阪社会部長、ニュースセンター副センター長、仙台支社長、東京支社長を努めた。長期連載企画「野望の系譜」、「執行再開－死刑の周辺」、「伝説たちの時代」など。共著に「ルポ高校中退」、「東京地検特捜部」(『談合の病理』改題)など。

【メディアリテラシー向上講座～事例で探るメディアのウソとホント】

(金曜日・5時限講義)

玉手 義朗

「殺人事件の容疑者として25歳の男が逮捕されました。」
テレビからこんなニュースが流れてきました。この男は本当に犯人なのでしょうか？

「私はこの方法で10キロのダイエットに成功しました！」
バラエティ番組で、お笑い芸人が体重計の上でガッツポーズをしています。
この方法を使えば、あなたも痩せることができるのでしょうか？

私たちはテレビや新聞、インターネットなど様々なメディアから発信される情報に囲まれています。しかし、その中には誤った情報も多く、「やらせ」や「ねつ造」も頻発、安易に信じると、とんでもないことになりかねません。

情報を鵜呑みにするのではなく、自らの力で真偽を判断することが「メディアリテラシー」です。講座ではメディアの裏側を探りながら、メディアリテラシーを高め、正しい情報の活用方法を身につけて行きます。

予定しているテーマは以下のとおりです。

- ① 報道・情報番組の裏側大公開
 - ・メイキングビデオで見る報道・情報番組の作られ方
- ② ねつ造・やらせ・誤報の実態
 - ・世紀のスクープ写真「崩れ落ちる兵士」の真実
- ③ バラエティ番組の裏側
 - ・熱湯は本当に熱いのか？ ナイナイ岡村の挑戦状
- ④ メディアと政治
 - ・あなたはどちらに投票しますか？
ケネディVSニクソンテレビ討論会を見てみよう
- ⑤ メディアと災害報道
 - ・大地震発生！ その時メディアは？
 - ・ハリウッドの名優ジョン・ウェインを死に追いやった放射線被害
- ⑥ メディアと人権、プライバシー問題を考える
 - ・容疑者の手錠にモザイクがかかるワケ
- ⑦ メディアとお金の密接な関係
 - ・視聴率とお金の関係
- ⑧ 最新のメディア動向

玉手 義朗 (たまた・よしろう)

1958年 茨城県生まれ 外資系金融機関などで外国為替ディーリングに従事

1992年 TBSテレビ入社

社会部記者・経済部デスク・CS放送経済ニュースのキャスター

「みのもんたの朝ズバッ！」プロデューサーなどを歴任

平成 30 年度 ジャーナリズム・政策研究所講義時間割

| | 3時限 | 4時限 | 5時限 | 6時限 |
|---|---|--------------------------------|---|---------------------------------|
| | 13:00～14:20 | 14:50～16:10 | 16:30～17:50 | 18:00～19:20 |
| 火 | | | 時事コラムの楽しみ方 (桑原聡) | |
| 水 | | ドキュメンタリーは こうして生まれる (須磨章) | デジタル時代の 新聞ジャーナリズム (向井貴之) | |
| 木 | | | | 出版社の現場から 一本づくりの舞台裏 (下平尾直) |
| 金 | 商品とマーケティング —ヒット商品が生まれた わけ— (坂本律行) | 体験的ジャーナリズム論 (山田克) | メディアリテラシー向上講 座～実例で探るメディア のウソとホント (玉手義朗)※前期のみ | |

【講義期間】

前期・・・5月22日(火)～7月20日(金)

後期・・・9月18日(火)～11月16日(金)

※6月19日の週、10月30日の週は休講です。その他は祝日も含め原則開講します。

【教 場】 深沢キャンパス講義室 2-1

※ ジャナ研の講義時間は1コマ80分です。

※ ジャナ研の講義の後に、本校での授業が控えている場合、終了10分前から途中退出可。

※ 講義日程・教場は変更になる場合もあります。